

## 【青森県六戸町】

### 校務 DX 計画

#### 1 現状と課題

令和5年度に文部科学省により示された「GIGA スクール構想の下での校務 DX 化チェックリスト（以下チェックリスト）」に基づく自己点検実施の結果、六戸町は学校向け並びに学校設置者（教育委員会）向けのいずれも、DX 化状況に課題があることが明らかになった。

主な課題は以下のとおりである。

##### ① 校務遂行におけるアナログとデジタルの混在

現在、各校での校務においては紙媒体もしくは個別のソフトウェアを用いて管理している。必要な情報を引き出すために両媒体にアクセスしたり、一元的に管理するために紙媒体の資料をソフトウェアに入力しなおしたりするなど業務の煩雑さにつながっている。

##### ② 学校が発信・受信する通知等のデジタル化

従来は、学校から保護者に向けて情報を発信する方法として、緊急連絡メールシステムを利用するか、印刷物を配布するかに限られていた。これらを活用して発信した情報に対する、保護者等からの質問や意見は電話等で各校に寄せられており、業務負担を重くする一因となっている。

##### ③ 教育委員会主催事業におけるデジタル化

児童生徒や保護者に対して、教育委員会が配布および周知したいものについては、そのほとんどが学校を経由して配布されている。これらに対する回答等は全て学校を経由して、教育委員会に届けられることから、教職員の負担軽減、ペーパーレス化、迅速な事務処理において改善が求められる。

#### 2 課題の解決に向けて

##### ① 統合型校務支援システムの導入

当町では令和7年4月に町立義務教育学校の開校を控えており、これに合わせて統合型校務支援システムの導入を決定している。システムの導入により、必要な情報の整理・統合・活用が一元的に進められることとなり、業務遂行の大幅な改善が見込まれている。

##### ② 双方向コミュニケーションが可能なサービスの導入

学校が発した通知等に対して、保護者が個人で所有する端末等でリアクションできるように、保護者連絡アプリを新たに導入している。これに伴い、様々な情報をペーパーレスで発信することができ、参加意向等についてもウェブ上で回答してもらうことが容易になった。

また、保護者から学校に対する児童生徒の欠席連絡等についても本サービス上で行うことが可能となった。学校と家庭間の連絡が一部デジタル化されることにより、教員が児童生徒と関わる時間の増加につながっている。

教育委員会からも直接保護者等に情報発信することが可能となり、緊急性の高い案件について

も即座に対応できるものとなっている。

③ 業務におけるクラウドサービスの導入

諸調査等のうち、協議や調整を要しないものについては、学校と保護者双方からクラウド経由で回答してもらうこととした。これにより、学校が集計する必要が無くなり、教育委員会としても回答内容や回答状況をリアルタイムで確認できる状況が生まれている。教員に対するアンケート等についても、デジタル活用を念頭に置き、業務の効率化を図っているところである。

教員が教育委員会や関係機関と連絡に使用できるメールアドレス等についても整備しているところであり、事務処理の負担軽減に一層取り組んでいきたい。